

清水 聡

Satoshi Shimizu

「ボクシング
フェザー級」

8月の北京オリンピックにボクシングフェザー級で出場が決まった清水聡さん。本番に向け、厳しい練習に励んでいる。



出場

2月にタイのバンコクで開かれたアジア一次予選で、カザフスタンの選手に勝ち、決勝に進出した時点で北京行きの切符を手にした。

国際大会では勝つことがなかったが、このときは違った。初戦で香港の選手に勝つと波に乗り、準決勝まで勝ち上がった。準決勝は劣勢だった。コーチから「ポイントで負けている。死ぬ気でいけ」と言われた。「100試合以上したが、今までにない最高のパンチだった」。体が勝手に動いたという起死回生の左ストレート

起死回生のパンチで北京行きをつかむ



清水 聡 (駒沢大学。種井)

昭和61年生まれ。昭和中、関西高出身。高校時代はバンタム級で、静岡国体では2位。昨年、フェザー級に転向し、秋田国体では成年フェザー級で優勝。アメリカのシカゴで開催された世界選手権にも出場。今年2月、タイのバンコクで開かれた北京オリンピックのアジア一次予選は準優勝

はさらに成長し、今ではフェザー級で国内のトップに君臨する。

「駒沢大学在学中でオリンピックに出たい」。同大学からの初めてのオリンピック選手となった。大学を愛する彼は意図的に卒業を1年見送った。

アマチュアボクシングは、ポイント制で試合が進む。ポイントは相手に当たったパンチの数。必ずしも強いパンチはいらぬ。確実にヒットさせることでポイントは稼げる。そんなことから「一つの芸術」と、彼はボクシングを評する。

「1回でも勝ちたい」。少し控えめな北京への決意だ。8月のオリンピック本番まで、全日本の合宿や国際大会への出場が計画されており、ボクシング漬けの日々が続く。「リーチの長さを生かせるよう、パンチやフットワークに磨きをかける」。きつい練習をすることで、肉体的にも精神的にも強くなれると言ふ。

負けず嫌いの性格が、この芸術を、より高いものにししようと練習に打ち込ませる。

北京での勝利を祈っている。